

未来の私への挑戦状「世界を治す」

筑波大学附属小学校 五年 萩谷 俐月

自分の将来の夢と言われて何を考えるか。私の場合は医師だ。テレビでしばしば耳にする、「新型コロナウイルス」。そして最近よく話題になる環境問題やSDGsを調べ始めたのが夢のきっかけである。今、コロナウイルスと戦い、手を尽くして治療をしてきている医療従事者の顔にはマスクの痕やあざがくつきりと残っていた。世界が崩壊寸前で耐えきれているのは他でもない医療従事者が限界まで支えてくれたということが分かった。そんな苦勞を目にして、私も人命を救いたいと思うようになった。また発展途上国での医療体制が十分でなく、貧困差が激しいという事実を知ったのも理由の一つである。

私の描く医師像は手の届く範囲の人命を一つでも多く救う一方で、環境問題を自分のできることに精一杯取り組んで少しでも解決につなげ、いずれば貧困や医

療体制の差が無い世の中にできる医師になることだ。

そのような夢を実現させるために必要なことを調べたところ、医師になる資格を取るために、医学部のある大学に入り、解剖や実習などを経験した後、医師国家試験を受験して資格を取り、二年間程色々な科を回って最終的に何科にするか決め、医師として働くのだということを知った。そして、もし可能であれば留学をしてより多くの知識で適切な処置ができるようになりたい。特にオーストラリアでは国民は医療費が無料であったり、医療水準などが高く、ハイレベルな技を身につけることや、自分の目指す医療の平等の参考につながることもあると思うため、いつかオーストラリアで学びたいと思っている。

では、今の自分は将来のために何ができるだろうか？一つ目は留学する時のた

めに備えて、他国語を習得し、話せるようにすることだ。この、他国の人も会話できるようにすることは、医師にとっても大切である、コミュニケーション力を培うことにもつながると考えている。二つ目は今のうちにお年玉等を貯めておき、医師の基本となる人体について詳しく書いてある本などを買って基礎知識を身に付けておくことだ。三つ目は高校生以上になったら積極的にボランティアなどに参加して、人間性を高めたり、救急外来などで求められる体力や冷静な対応、そして何より重要な患者さんの心に寄り添う事などの地盤となる部分をつくっていくことだ。

救えるのに救うことができなかった命を必ず救い、貧困を無くし、皆が平等な医療を受け、健康で長生きさせることをサポートし、世界を医療の力で平和にしたい。そのために今勉強を頑張ろうと思う。

萩谷 俐月 のライフプラン

将来なにになりたいか？ 内科医
その理由：病気に苦しんでいる人達を、最先端の医療で救い、一人一人の患者をサポートしてあげたいから。

夢をかなえるまでのスケジュール

西暦(年)	年齢(学年)	夢をかなえるために努力すること	努力するために、なににお金がかかりそうか
2021年	11(小5)	学校の勉強	英検 学費
2022年	12(小6)	中学入試のための勉強	中学入試受験書・テキスト代
2023年	13(中1)	中学へ入学 体力を作るために運動部に入る	ユニフォーム代 遠征費
2024年	14(中2)	中学での弁論大会に出場する	授業料
2025年	15(中3)	高校入試のための勉強	高校入試受験書 テキスト代
2026年	16(高1)	高校へ入学 体力を作るために運動部に入る	ユニフォーム代 学費
2027年	17(高2)	←大学へ見学 (TOEIC TOEFL) ←内科学会の市民公開講座をききにいく	←TOEIC・TOEFLの受験費
2028年	18(高3)	大学入試のための勉強 (TOEIC TOEFL)	大学入試受験書 テキスト代
2029年	19(大1)	大学の医学部へ入学 運動部に入る	ユニフォーム代 入学費 遠征費
2030年	20(大2)	診療所でアルバイトで生活費を稼ぐ 車の免許をとる	高校 教科書代
2031年	21(大3)	ランニングをする	大学の授業料
2032年	22(大4)		
2033年	23(大5)		
2034年	24(大6)	医師国家試験を受験し、合格する。	
2035年	25(研修1)	オーストラリアで(遺伝子治療について)積極的に学ぶ	オーストラリアへ行くための渡航費
2036年	26(研修2)		オーストラリアでの生活費
2038年	28(大学院2)	博士過程卒業	大学院の授業料

※最後の行は、荷蔵の時にどうなっていたいか、自分で好きな年を入れてみましょう！